

語学研究部「日本アセアンセンターオンラインプログラム」に参加しました。

語学研究部では、「日本アセアンセンターオンラインプログラム」に参加し、Zoomにて本校アイリスホールから、ASEAN 諸国の文化や日本と ASEAN 諸国との関係について学びました。また、ブルネイ出身の方と英語も交えて交流し、災害に関すること、新型コロナ、日本との違い等様々なことを質問しながら学ぶことができました。

【生徒の感想】

普通に生活していると、どうしても ASEAN 諸国には目が行かず、ヨーロッパやアメリカに興味を持つ人が多いと思います。しかし、今回 ASEAN センターの方にお話を聞き、私たちの知らない東南アジアの魅力を知ることができたと思います。石油やコーヒーなどの輸出産品を日本が輸入することで、互いに助け合いができていたり、日本の技術協力が都市の発展をさせていたり、互いにより良い関係を築いていくことで、今後の経済成長や、多くの課題の解決に向けて良い影響が期待できるのではないかと考えました。

日本だけでなく、世界中がコロナウィルスと戦っている中で、世界に目を向けて、今、それぞれの国がどんな状況なのかが知りたいと思い、コロナによる観光客の減少による ASEAN への影響は？と質問したところ、特に観光に経済成長をたよっている国々では、経済が完全に止まり、失業者が増えていると聞きました。

日本とほとんど同じ状況ですが、観光資源の大切さや経済状況を ASEAN 諸国の現状の話から学び考えることができました。

(語学研究部 2 年 三浦誠鈴)

事前学習として使用した ASEAN の資料に載っていない内容もわかりやすく解説してくださったので話が頭に入りやすかったです。

質問した、他国の避難訓練について自分なりに考えてみました。ブルネイでは自然災害の発生率は比較的低いとされており、避難訓練自体、行うことはないようですが、過去にモンスーン気候による洪水が発生した事例があると担当スタッフの Ani さんは言っていました。自分はブルネイに限った話ではないのですが、過去にその地域で自然災害が発生したという事例がある場合、簡単なものでも避難訓練や防災教育を行った方が良いと考えました。

ブルネイの場合は洪水に対する防災として、高台避難や垂直避難による避難経路の確保、確認などの訓練を、地域や団体ごとに行うことで、災害発生時の被害者は減るのではないかと考えます。

ASEAN 加盟国の中ではサイクロンや津波といった大規模災害が過去に発生しているので、各国の防災対策をもう少し強化すべきだと考えました。

(後が研究部 3 年 池田孝太)

